

學界の動き

日本保險學會

日本の保險學界には明治二十八年以來「保險學雜誌」を以て知られた「保險學會」が存在し、今度の大戦に至るまで活動を續けて來た。昭和十五年十一月新たに「日本保險學會」が成立して、同年以來年次大會を開催其の成果を「保險學論集」として刊行、學會に大なる貢獻をなして來たが、昭和十九年十一月の會合を最後として活動を中止していた。日本の保險學關係者の大部分は此の二つの學會の何れか又は双方の會員となり、少數の者は何れにも屬しないといふ狀況であつた。

戦後社會科學の學會が續々復興するにつれて保險學會の復興の問題は斯學關係者個々の腦裏には泛んで來たが、夫が公の日程に上つたのは昭和二十三年十一月、前東商大教授米谷隆三氏の斡旋により生命保險關係者の間に「保險學徒の會」が持たれた際であつた。其處での結論は戦前の保險學界の主流である日本保險學會の再建を促進し、「保險學會」との併立關係を解消すると共に、四百號に近い歴史を持つ同會の「保險學雜誌」の續刊を考へることであつた。そこで「保險學會」は昭和二十四年五月役員會を開き、その發展的解消と保險學雜誌の刊行を日本

保險學會に依頼することゝを決議した。こうした外部の情勢に應じて昭和二十五年三月開催の日本保險學會理事會は、同會の再建を在京の七氏（一橋大加藤、大林、早大葛城、明大印南、勝呂、生保協會野口、損保研究所林田）に一任すること並に再建大會を一橋大學に於いて開催することゝを決定した。

斯様な「保險學會」の意向と「日本保險學會」の委託とに基いて前記七名は昭和二十五年五月より拾月に互り再建の準備を進め十一月十、十一日の兩日に互つて、學界の大家、中堅、新進を網羅して盛大な再建大會を開くことに成功した。大會第一日は一橋大學職員集會所に於いて開催、午前中は経過報告、會則審議、役員選出等再建に關する議事の外に學界の大先覺、前日本アクチュアリー會長第一生命保險會社長矢野恒太、法學博士志田鉦太郎、同栗津清亮の三氏に對し其の半世紀以上に亘る保險學界への功績に對し本學會の名に於いて感謝を表する決議が行はれた。同日午後同じ會場で次の如き研究報告が行はれた。

- 一、福祉國家に於ける簡易保險 簡易保險局 青谷和夫
- 二、保險に於ける需要と供給 京都大學 佐波宣平
- 三、損害保險事業と獨占禁止法 東京海上火災 水澤謙三
- 四、失業保險の現状と問題點 労働省 安達晋一郎
- 五、保有決定の原理 神戶大學 武林範定

報告一に對しては至大な關心を有する民營生命保險業の側からの活潑な質問が行はれ、報告二は保險經濟學の新展開として傾聴され、報告三は米國に於いて、獨占禁止法を損害保險に適

一 橋論叢 第二十五卷 第五號

用するにつき如何に慎重であつたかを明快に説明して我國の場合を反省せしめるものがあり、報告五は保險經營に於いて慎重に取扱はるべき理論についての啓蒙的意義の甚だ大なるものであつた。都心を離れた會場にも拘はらず、會員外の傍聴者も多數參集して會場を溢れるほどであつた。然し本年は短期間に大會報告者を決定することを必要としたために新進の少なかつたことと、久し振りの會合のために一般的に見て質疑討論に幾分控目の風の見られた點とに憾があつたともいえよう。

第二日は午後二時より大手町東京海上別館會議室に於いて次の公開講演會を開催した。

一、戦後我國生命保險業の推移と國際的展望

生命保險協會 野口正造氏

二、社會保障の諸問題

大阪市立大學 近藤文二氏

三、英米損害保險事情

安田火災 森 啓二氏

四、團體生命保險について

千代田生命 氣賀眞一郎氏

土曜日の午後であり且交通至便な會場の故に會員外聴衆多數を集めて専門の講演會としては珍しい盛會であつた。

此の日午後六時半より生命保險協會において北海道、四國、九州からの參加者を含めた五十名の會員の懇親會を以つて大會の掉尾を飾ることが出来た。

以上の再建大會の記録は其他の活動記録と共に從來の保險學論集に倣つて一九五〇年報として既に發表されているが、日本保險學會は更に舊「保險學會」より負託された「保險學雜誌」

を一九五一年より春秋二回編集刊行することを取上げ、學界に緊要な發表機會を提供することゝなつた。

以上日本保險學會の再建と其の活動について記したが、再建された學會は單なる戦前の學會の再建でないことを註記しておきたい。即ち戦前の日本保險學會は日本の保險學界における一學會(勿論主要な一つであつた)であつたが、再建されたのは舊「保險學會」の會員や夫にも屬しない學究をも網羅した唯一の學會である。その上に日本保險學會は舊「保險學會」の「保險學雜誌」を繼承することによつて、獨逸の保險學會が二十世紀の初頭以來 Zeitschrift für die gesamte Versicherungswissenschaft によつて其の保險學を世界最高の水準に保持し得たことを想起せしめ、日本保險學會自ら二十世紀後半に對して課題を設定したことゝなる。この再建の意味と課題は本會の運営に當る者へは勿論會員一般に對し至大なる責任を課することゝなつた。

(大林良一)

執筆者紹介

藤井義夫	一橋大學教授
小川弘	工學院大學助教授
大成龍雄	一橋大學講師
平田清明	一橋大學特別研究生
水田洋	名古屋大學助教授
井藤半彌	一橋大學教授
大林良一	一橋大學教授